

# 調査研究および情報提供事業等に必要経費

## 情報センター事業費

### 1. 催し等事業費

- (1) 国内連携促進

### 2. 文化資料事業費

- (1) 定期刊行物
- (2) 年次報告
- (3) インターネット
- (4) JFサポーターズクラブ

### 3. 調査研究費

- (1) JFICライブラリー
- (2) 国際交流顕彰事業（基金賞・奨励賞）
- (3) 国際交流顕彰事業（地球市民賞）

情報センター事業費

催し等事業費 (1)国内連携促進

国内の国際交流活動の振興と国際交流団体のネットワーク化を目的とした情報収集、フェスティバルへの協力、セミナー開催を行う。

合計額 2,673,420 円

事業名	共催・協力団体	期間	事業内容
1 フェスティバル参加	仙台国際センターまつり実行委員会 金沢国際交流財団 外務省 国際協力機構(JICA) 国際協力銀行(JBIC) 国際協力NGOセンター(JANIC) 愛知県国際交流協会(AIA) 名古屋国際センター(NIC) 国際協力機構中部国際センター(JICA中部) ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会	07.04.01～ 08.03.31	全国各地で開催される国際交流フェスティバルにて、ブース出展、セミナー実施。仙台(国際センターまつり)、金沢(国際交流まつりフェスタ)、東京(グローバルフェスタ)、横浜(ワールドフェスタ)、名古屋(ワールド・コラボ・フェスタ)、大阪(ワン・ワールド・フェスティバル)
2 創造の場シンポジウム「都市を刺激するアート」	金沢21世紀美術館	08.03.09	都市・地域に活力を与え、まちづくりに不可欠な要素となっている、「創造性」を生み出す「場」として、アーティストやクリエイターを地域に迎え入れるレジデンス事業やアート・プロジェクトの意義について討議する。 参加者 カミン・ラーチャイプラサート(アーティスト・タイ)、エレヌ・ケルマシュター(在日フランス大使館文化アタッシェ)、遠藤水城(アークスプロジェクトディレクター)、キム・スンヒー(フリーランスキュレーター・韓国)等
3 「九州創発塾2007」	大分合同新聞社	07.08.22～ 07.08.24	大分合同新聞社ほか九州の主要地方紙6社が共催して実施する「九州創発塾2007」に特別協力として国際文化交流に関する分科会への講師派遣を行った。

文化資料事業費 (1)定期刊行物

国際文化交流に関する専門誌『をちこち(遠近)』(和文)を、隔月にて発行する。

合計額 42,291,675 円

事業名	部数	事業内容
1 遠近16号	7000	特集テーマ「隣人、ロシア」 2007年4月1日発行

## 情報センター事業費

	事業名	部数	事業内容
2	をちこち（遠近）17号	7000	特集テーマ「酒は地球を回る」 2007年6月1日発行
3	をちこち（遠近）18号	7000	特集テーマ「インドを解く」 2007年8月1日発行
4	をちこち（遠近）19号	7000	特集テーマ「マンガからMANGAへ」 2007年10月1日発行
5	をちこち（遠近）20号	7000	特集テーマ「フランス 都市の文化力」 2007年12月1日発行
6	をちこち（遠近）21号	7000	特集テーマ「世界の『国民的女優』」 2008年2月1日発行
7	をちこち（遠近）22号	7000	特集テーマ「遠くて近い ブラジル」 2008年4月1日発行
8	をちこち（遠近）23号	7000	特集テーマ「翻訳がつくる日本語」 2008年6月1日発行

### 文化資料事業費 (2) 年次報告

年度ごとに総括を報告する年報を発行する。

合計額 14,736,020 円

	事業名	事業内容
1	和文・英文年報2006	国際交流基金の2006年度（平成18年度）事業に関する和文および英文年報の作成（各6000部）

### 文化資料事業費 (3) インターネット

ウェブサイト、eメールマガジンを通じて、プログラムガイドライン等も含めた国際交流基金の各種事業や、国際文化交流に資する情報提供を行う。

合計額 17,728,645 円

	事業名	事業内容
1	国際交流基金ウェブサイトの運営	ジャパンファウンデーションの事業に関する情報、公募事業の案内および申請書類、その他お知らせ等をインターネット上で提供。URL：http://www.jpfi.go.jp
2	メールマガジン	ジャパンファウンデーションの事業に関する情報をメールマガジン（和・英）で配信。
3	ブログ	ジャパンファウンデーションの事業に関する告知や報告をブログで公開。

	事業名	事業内容
4	動画配信	ウェブサイト上でジャパンファウンデーションの実施した公演、展覧会、セミナー・シンポジウム等の映像ファイルを公開。

文化資料事業費 (4) JFサポーターズクラブ

年間一定額の寄附金を会費として支払った個人に対し、基金に関する情報を提供。

合計額 8,138,371 円

	事業名	事業内容
1	JFサポーターズクラブの運営及びイベントの実施	国際交流基金事業への支援者を対象として、国際文化交流に参加してもらうことを目的としたJFサポーターズクラブを運営。また国際文化交流についての理解を深めてもらうため、国際交流基金事業に関連するトークイベント、講演会、研修会、授業見学会などを実施。

調査研究費 (1) JFICライブラリー

国際交流に関する情報の照会及び日本に関する情報の照会に対応するための情報センターを運営する。

合計額 45,520,986 円

	事業名	事業内容
1	JFICライブラリーの運営	国際交流基金の実施事業に関する出版物や事業ファイル、国際文化交流・文化政策に関する図書資料、外国語で書かれた日本紹介図書・映像資料などを所蔵（図書約31,978冊、雑誌400冊、視聴覚資料548点、マイクロ資料4,982点）。研究者はもとより国際文化交流に関心のある幅広い利用者に情報を提供。

調査研究費 (2) 国際交流顕彰事業（基金賞・奨励賞）

学問、芸術その他の文化活動を通じて、国際文化交流に特に顕著な貢献があった個人、団体等に対しその功績を顕彰する。

合計額 27,206,050円

	種別	受賞者(現職)・授賞団体	国	事業内容
1	国際交流基金賞	ロイヤル・タイラー (元オーストラリア 国立大学アジア研究 学部日本センター所 長・教授)	オーストラ リア	長年にわたる日本文学研究・指導、英語翻訳による能の紹介、『源氏物語』の優れた翻訳など、海外における日本文学・日本文化に対する理解の促進に対する多大な貢献と功績に対し、国際交流基金賞を授与。

情報センター事業費

	種別	受賞者(現職)・授賞団体	国	事業内容
2	国際交流奨励賞・文化芸術交流賞	北川フラム(㈱アートフロントギャラリー代表取締役社長)	日本	数々の先駆的な国際展を成功させたほか、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」の総合ディレクターとして、海外のアーティストと地域住民との協働を通して、現代アートの力で継続的な地域振興を行ってきた功績と今後の更なる貢献に期待し、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を授与。
3	国際交流奨励賞・日本語賞	リービ英雄(小説家、法政大学教授)	米国	「万葉集」の優れた英訳により、日本文学を海外に紹介するほか、日本語により多数の小説、評論などの作品を著し、日本語の可能性を広げるとともに異文化間の理解を促進してきた功績と今後の更なる貢献に期待し、国際交流奨励賞・日本語賞を授与。
4	国際交流奨励賞・日本研究賞	アイシェ・セルチュク・エセンベル(ボスポラス大学教授)	トルコ	日本研究者として優れた学術的業績をあげるとともに、日本研究学会の活動を通じたトルコの日本研究者の組織化や、後進の育成に尽力し、トルコにおける日本研究及びトルコ・日本間の学術・知的交流の推進に貢献してきた功績と今後の更なる貢献に期待し、国際交流奨励賞・日本研究賞を授与。

調査研究費 (3)国際交流顕彰事業(地球市民賞)

国内各地で行われている地域に根ざした国際交流活動を振興するために、この分野で活躍している国内団体、個人を顕彰する。

合計額 11,246,017 円

	受賞者(団体)名・事業名	都市	事業内容
1	特定非営利活動法人 芸術と計画会議(C.A.P)	兵庫県神戸市	神戸在住のアーティストたちが、震災後、神戸旧居留地全体を美術館にする構想を県や市に提案し、アートセミナーやワークショップなどを展開。99年には老朽化し放置されていた旧神戸移住センターを神戸市から借り受け、期間限定のアーティストの仕事場とし、市から運営を委託された同センターをアートセンターとして甦らせた。芸術と地域を結ぶ活動から、アイルランドと日本のアーティストが互いの国を訪ね作品を発表する「リュックサック・プロジェクト」といった活動を行ってきた同団体に対し、「地球市民賞」を授与。
2	特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク	愛媛県松山市	内戦が続いていたモザンビークにおける平和構築・復興支援策として、引き取り手のない放置自転車を譲り受けて日本から送り、現地で武器と交換するプロジェクトを実施し、これまで、合計420台の自転車やマシン、衣類、文房具などを送った。この他、現地でのマシンの使い方指導や、自転車を活用して誰でも参加できる「チャリ・チャリティー」などの募金イベント企画を、四国内のNGO、大学や学生などと連携して実現するなど、地域に密着した国際交流活動を行ってきた同団体に対し、「地球市民賞」を授与。

	受賞者(団体)名・事業名	都市	事業内容
3	特定非営利活動法人 アジア女性センター	福岡県福岡市	日本で働く外国籍女性を対象に、生活全般に関する電話相談、DV被害女性への緊急支援を行う施設の運営や女性と子どもの人権を守る活動を行ったり、フェアトレード製品を使ったカフェの運営を行なう。さらに、日本人を父親とするジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレンによるミュージカル上演と父親探しの支援など、日本人と外国人が共生できる地域づくりを目指した活動を実践してきた同団体に対し、「地球市民賞」を授与。

# 調査研究および情報提供事業等に必要経費

## 企画・評価費

### 1. 調査研究費

- (1) 調査研究
- (2) 事業評価（企画評価）

調査研究費 (1)調査研究

国際交流の促進に資する各種調査研究を行ない、この成果を広く内外に公開する。

合計額 3,286,868 円

	事業名	国	都市	期間	事業内容
1	中国パブリック・ディプロマシー調査	中国	上海 北京	07.04.11～ 08.07.31	中国における国際文化交流の基礎となる中国のパブリック・ディプロマシーや文化外交について、基本的な考え方を理解し、現状と課題を把握するとともに、将来的に日中両国における国際文化交流分野での協力・共同の可能性を探るために、中国におけるパブリック・ディプロマシーの現状と課題を調査する。
2	情報収集プロジェクト	ドイツ	ケルン	07.04.01～ 08.03.31	ドイツの国際文化交流政策に関し、定期的な情報収集を行う。

調査研究費 (2)事業評価 (企画評価)

国際交流の促進に資する各種調査研究を行い、この成果を広く内外に公開する。

合計額 879,212 円

	事業名	期間	事業内容
1	専門評価	07.04.01～ 08.03.31	平成18年度業務実績報告書の客観性と信頼性を高め、改善点等を把握するため、事業プログラムごとに外部専門家による評価を実施する。
2	評価に関する有識者委員会	07.04.01～ 08.03.31	国際交流基金の業務について、各年度終了後に行う自己評価の妥当性、評価方針、方法並びに評価結果を踏まえた基金の業務の改善について、有識者に諮るための委員会を開催する。

# 調査研究および情報提供事業等に必要な経費

## 文化事情調査費

1. 調査研究費
  - (1) 文化事情調査

## 調査研究費 (1)文化事情調査

国際交流基金の総合的企画立案機能強化の一環として、相手国別に文化事情を調査し、また、同国と日本との文化交流において基金が果たすべき役割等につき、方針を策定する。

合計額 14,692,499 円

	事業名	国	期間	事業内容
1	日越文化交流フォーラム	ベトナム	08.03.11～ 08.03.12	日越両国間の文化交流・相互理解を促進し、日越両国間の「戦略的パートナーシップ」を強化することを目的に、日越両国の官民各分野（文化・芸術交流、知的交流、文化財保存、人材育成等）の有識者を集めて日越文化交流を更に促進する上での今後の課題と可能性を議論する官民合同会議をハノイにおいて、また、活力ある文化交流を実施するための方策等につき両国の民間有識者同士が意見交換を行なう民間対話をホーチミンにおいて実施。
2	海外アドバイザー	イラン トルコ 韓国 南アフリカ	07.04.01～ 08.03.31	海外の文化関係者4名（南アフリカ、イラン、韓国（光州）、トルコ）による現地文化事情の情報収集
3	日本・ロシア交流タスクフォース	ロシア	07.04.01～ 07.12.31	対ロシア文化交流事業の中期的な指針策定のため、基金内にタスクフォースを設置し、外部有識者からのヒアリングや勉強会等を実施。

## 調査研究および情報提供事業等に必要経費

### 国際文化交流研究センター事業費

#### 1. 調査研究費

##### (1) 調査研究

国際文化交流研究センター事業費

調査研究費 (1) 調査研究

新たに基金内に国際文化交流研究センターを設置し、国際文化交流に関する基礎的・理論的研究、実証的研究、情報の収集等に事業を実施するために基盤・体制を整備し、主要プロジェクトを軌道に乗せる。

合計額 8,084,569 円

	事業名	期間	事業内容
1	国別評価手法開発	07.04.01～ 08.03.31	専門家の知見を取り入れ、有効且つ実用性の高い国別評価手法を開発。平成19年度は、第二次試行評価（ドイツ）を継続し、且つ第一次・第二次試行評価の結果分析を行い、モデルとなる調査票・分析デザインを作成した。
2	人間の安全保障研究	07.04.01～ 08.03.31	人間の安全保障に貢献したと思われる事業例を調査し、「人間の安全保障・平和構築関連事例データベース」を作成。文化関連事業が国際平和構築にどのように貢献するかを考察した小冊子「文化が創る国際平和」を出版。担当研究員は、英国戦略問題研究所年次総会に招へいされ、「人間の安全保障」に関して報告を行った。また、「人間の安全保障」に関する論文も複数執筆し、『慶應法学』他に掲載。